

東日本大震災 2011年（平成23年）3月11日午後2時46分（マグニチュード9・0）

NO104

各位

2019年6月11日（火）

桜丘高等学校 生徒会

孫便りの会・生徒一同

～今日で東日本大震災から8年3カ月が経過～

東日本大震災が発生して8年3か月が経過し、被災地では災害公営住宅に入居した被災者の方たちの生活に寄り添う事の大切さが問われ始めています。また、4月には気仙沼港と大島との足でもあった定期船フェリーが架橋によって廃止されたという事もあり、今は気仙沼の復興支援を目的に活動している椿会（復興支援を支える女人たちの集まり）が立ち上がり、漁師町である気仙沼港の近くに漁師さんたちがくつろげる施設（礼拝堂・食堂・風呂）を建設しようと計画しているとの事です。そのコンセプトは「設備より暮らしが大事」で、とにかく、漁師さんたちがホッとできる場所にしたいとの事でした。

一方、震災以降人口減少に歯止めがかからないという問題もあり、そのことを心配し、何とか気仙沼に戻ってきてほしいという切実な声も聞こえてきています。そんな中、南三陸道が延伸されて大島ICが出来るまでには何とか地元を盛り上げるべく「大島の食文化を伝えよう」という動きもあるなど、気仙沼・大島を愛する人たちが知恵を絞り合って復興・復旧への道のりを一步ずつ進めています。

～今年8月には23回目の東北復興支援へ！～

＜日程：8月16日（金）～19日（月）交通：大型バスで13時間＞



＜気仙沼での海岸清掃＞

震災が発生した2011年から大型バスにて「東日本大震災復興支援活動」を始め、今回で23回目となる復興支援行動ですが、これまでに延べ900人弱の生徒たちが気仙沼・大島に出かけ、額に汗し、涙を流しながら思い出を共有してきました。

気仙沼に到着すると「ただいま！」「お帰り！」、現地を離れる時には「行って来きます」「行ってらっしゃい！」と自然に出てくる挨拶と笑顔に支えられながら支援活動

を続けています。これからも、これまでの支援活動で積み上げてきた一つ一つの思い出をしっかりと振り返りつつも、更なる先を見つめて、これから出来る事、やらなければならぬ事を豊橋の皆さんと一緒に考えながら、頑張って行きたいと思っていますので、宜しくお願ひ致します。